

林政審議会での有識者ヒヤリングでの意見・要望事項

＜期日＝H27.10.26 場所＝林野庁＞

真庭市長 太田 昇

【林業・木材産業の振興のための基本的な方策】

- 新たな需要の創出により、木材需要を拡大し、木材価格を上げること
- 川上から川下にかけての全過程で、生産・流通コストを低減させること
- そのためには、人材育成が必須である。

1 木材需要の拡大

（１）ＣＬＴの活用

- ・鉄骨や鉄筋コンクリートの代替材としてのＣＬＴの良さをより一層PRする。
そのために、ＣＬＴを現しで見せることができる実証建築物が必要。
- ・ＣＬＴへの理解醸成を更に進め、中高層建築物への利用を推進する。
- ・ＣＬＴにヒノキを使用できるように事業者の取組を支援する。
- ・東京オリンピックは世界が注目するイベントであり、施設に木材を多く使用し、木材の良さが見直される機会とする。

（２）輸出の促進

- ・木材は従前から国際競争価格となっている。相手国のニーズと建築様式等を十分に把握したうえで、付加価値の高い木材製品の輸出を増大させる。

（３）安定供給体制の構築や耐震・耐火性能の向上によって信頼を確保

- ・川上から川下までを一体として捉えた林業・木材産業に係る総括的な計画策定等へ支援する。
- ・耐震・耐火性能に関する企業等での研究開発に対して支援する。

（４）土木分野等への活用

- ・木製ガードレール、木製ダム等、土木分野への利用についての研究開発に対して支援する。

（５）木質バイオマス発電事業の安定的実施

- ・木質専焼のバイオマス発電所の燃焼灰は活用の可能性が大きい。燃焼灰活用についての調査・研究に対して支援する。

2 生産・流通コストの低減

(1) コンテナ苗による主伐→再造林のコスト削減

- ・主伐、そして再造林を進めるために、主伐後すぐに地拵えと植栽を行う低コスト造林も1つの方策だが、他の方策も示すこと。
- ・市有林にコンテナ苗を約1ha植栽し、また30年で主伐が可能な早世樹の植栽を検討している。国の機関での実証栽培で得られたデータに基づくコンテナ苗及び早世樹の長所と欠点を関係者に周知する。

(2) タワーヤーダによる主伐コストの削減

- ・タワーヤーダの導入を検討しているが、林道の幅員が狭い、集約化が十分でない等の理由により、施業に適した森林が少ない。タワーヤーダ施業に適した森林の調査に要する経費に対して助成する。

3 人材育成

(1) 林業大学校、森林技術総合研修所等との連携

- ・林業大学校を全国に設置することは困難なため、設置府県以外に居住する林業従事者を対象とした研修の受入と学生の森林現場（派遣先地域）での研修等を行い、相互にメリットのある運営ができるように支援する。
- ・地域の要望に基づき、森林技術総合研修所や林業機械化センター等の職員が全国各地の現場に出向き、林業従事者等へ水準の高い技術指導を行う。
- ・林業大学校や森林技術総合研修所等が行う研修に、全国各地の林業従事者や行政職員が参加する場合に支援を行う。

(2) 大学の建築学科等との連携

- ・大学の建築学科や高等学校の建築科等と連携し、木材関係の建築技術に関する講義を全国各地で開催し、地域の設計士・建築士が木材の良さを学び、木材の活用に対する知識や技術を研修できる場となるように支援する。

《本来の林業・木材業のあり方～50年後の姿をめざし～》

木を使い切る真庭創出事業（地域内経済循環を産み出し、持続可能な「杜市」づくりを目指す）

